掛け算

校　長　辻　太久郎

６月２４日（金)、歌声集会が行われました。多くの保護者の皆様にご参観いただき、まことにありがとうございました。発表曲は、２年生「友だちになろうよ」「虹」、４年生「音楽の贈り物」「フレンドシップ」、６年生「翼をください」「ベスト・フレンド」でした。本番当日は、それぞれの学年の持ち味や良さが最大限発揮されたと思います。

「歌声（合唱）は、足し算ではない。掛け算だ」という言葉があります。つまり、複数人が歌声（合唱）を通した関わりの中でお互いに影響し合うことで、持てる力の何倍もの力を発揮したり、新たなものを生み出したりすることができる。ということです。これを「化学反応」と表現する人もいます。歌声に限らず、チームスポーツや団体活動などでも言えることです。

その「掛け算」「化学反応」、本校でも歌声集会への取り組みの中、多くの場面で見ることができました。２年生のある児童（Ａくん）は、何かがきっかけですっかり歌声へのやる気を失ってしまいました。２年生では、帰りの会でがんばっていた人を称える「今日の良かったさん」コーナーがあります。歌声集会も目前に迫ったある日のそのコーナーで、友だち数人から「Ａくんが歌の練習の時、頑張っていた。」と認めてもらいました。そのことが彼の心に再び火をつけたそうです。

４年生は、音楽科教諭から、「体でリズムをとりながら歌うとより表現力が高まる」とアドバイスもらいました。もともとノリの良い男子たちは、すぐに体を動かしはじめました。おしとやかな女子たちは、最初は恥ずかしがっていましたが、男子のノリに少しずつ影響を受け、本番では男子に負けないくらいノリノリで表現することができました。

６年生は、練習開始当初は「足し算」だった合唱も徐々に「掛け算」へと進化し、当日はこれまでで最高の仕上がりとなりました。その進化のスピードには目を見張るものがありました。それは、彼らの歌声だけでなく、その姿勢や表情からも見て取ることができました。

歌声集会前日には練習会を行い、当日発表する学年が発表しない他学年に、歌声を披露しました。披露した学年の児童の感想にこんなものがありました。「〇〇年生の皆さんが、私たちの歌を真剣に聞いてくれていたので、私も真剣に歌おうと思い、がんばるこができました。がんばったので楽しく歌うことができました」。また、練習会の終盤、音楽科教諭の「では最後にみんなでいっしょに歌いましょう」というアナウンスに、聞く側だった学年から「よっしゃ！」「やった！」等の喜びの声があがりました。他学年の歌を聴いているうちに、自分たちも歌いたくてたまらなくなったのでしょう。

この「掛け算」の話になると「では、メンバーの中に小数点以下の人、ゼロやマイナスの人がいたら、皆の努力が全て台無しになるのか」とつっこむ人もいます。私は、決してそんなことはないと思います。そこにその人が存在していることがすでに「１」以上だからです。どんな存在であれ、その集団の成長には欠かせない存在なのです。今回子どもたちが歌った歌は、どれも「友だち」がテーマです。彼らがただ単に喉から音を出したのではなく、歌詞の意味をかみしめながら、心を込めて歌ったのであれば、「掛け算」「化学反応」は、起こるべくして起こったのだと思います。

私たち人類が音楽を生活の一部にしたのは、仲間の結びつきを強め社会を維持するという進化上の利点があったからだという説があります。また、一緒に歌う、同じ動作をするといった経験を共有した相手とは、課題に立ち向かう際に協力し合う傾向が強くみられるという報告もあるそうです。